

空港冠水で2200便が欠航

■ドバイ国際空港が通常体制に

先週16日の記録的豪雨で冠水して欠航が続いたドバイ国際空港（DXB）が22日、1日当たり約1400便運航の通常体制に戻った。DXBとドバイ・ワールド・セントラル（DWC、アル・マクトゥーム国際空港）を運営するドバイ空港会社のポール・グリフィス最高経営責任者（CEO）が23日、復旧スケジュールを前倒して通常体制に戻ったと声明を出した。

グリフィスCEOは、「空港内およびその周辺の道路に水が溜まる状況は100%解消されており、人的資源、物流、施設は再び通常通りに稼働している。空港を復旧し、稼働させることは簡単なことではない。この間、2155便が欠航し、115便が目的地変更となった」として、31便はDWCが受け入れたと説明した。DXBとDWC周辺の通行止めで物資輸送に当初は

影響を受けたが、両空港に7万5000個を超える食品パックを配達して利用客をケアしたという。グリフィスCEOは、「未処理の手荷物の処理など、いくつかの課題は残っている。われわれはサービスパートナーと緊密に連携しているが、やるべきことがまだあることは承知している。問題解決の間、辛抱強く待って頂いているゲストに改めて感謝する」とした。